

令和6年11月29日

久留米市議会議長 吉富 巧 様

教育民生常任委員長 秋永 峰子

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日 程 令和6年11月6日（水）～8日（金）
- 2 派 遣 先 広島県福山市：義務教育学校の取組について
及び内容 静岡県静岡市：認知症施策について
兵庫県明石市：明石独自の5つの無料化について
- 3 派遣委員 委員長 秋永 峰子
副委員長 大熊 博文
委員 堀田 洸太郎、長野 哲、草場 公晴、山崎 ケブン、
坂田 光弘、佐藤 晶二、塚本 弘道
- 4 報 告 書 視察報告書のとおり
- 5 そ の 他 随行 最所 璃江

視察報告書

委員会名	教育民生常任委員会
視察日時	令和 6 年 11 月 6 日（水） 午後 1 時 ～ 午後 3 時
視察先・増 概要	広島県福山市 人口：約 45 万 6 千人 面積：517.72 k m ² 特記事項：中核市
視察内容	義務教育学校の取組について
選定理由	小学校の小規模化対応方針について今年度 8 回の所管事務調査を行ったが、新たな取組として執行部より義務教育学校の案が提示されている。概要やメリット・デメリットなどについて先進地から学ぶことによって、今後の久留米市の学校教育の在り方について検討するため。
調査概要	福山市役所にて、福山市議会議事調査課 佐藤課長から福山市のあらましの説明を受けた後、教育委員会事務局管理部学校再編推進室 坂川次長から義務教育学校の様子を DVD にて紹介。その後、教育委員会事務局管理部学校再編推進室 皿海室長より資料を使った詳細な説明を聴取し、質疑応答を行った。
調査内容	【鞆の浦学園】 2019 年、鞆小学校と鞆中学校が一緒になり義務教育学校として開校 1 学年から 9 学年まで各 1 クラスと特別支援 6 クラスの合計 15 クラスの 200 名。1 年生～4 年生までを前期、5 年生～7 年生を中期、8・9 年生を後期としている。全ての学年で外国語学習と鞆学（子供たちが自らテーマ設定し探求する「ふるさと学習」）を組み合わせる特色ある教育活動を行っている。 最初は、小学校と中学校が一緒のため、なじめない生徒もいたが、現在はなじんでいる。鞆の浦学園は鞆小学校の校舎を改修して開校したため、グラウンドが小学校仕様で面積が狭く、部活動は少し離れた鞆中学校のグラウンドを利用している。なお、その際の交通手段も整えている。 また地域の方とふれあえるスペースとして「ふれあいホール」を学校内に整備している。 【想青学園】 2022 年に第 2 の義務教育学校として 5 小 2 中が一緒になり開校 学校再編の計画の中では、小学校は小学校同士、中学校は中学校同士での再編を考えていたが 5 小 2 中の再編となった。 再編に当たっては内海町から 3 つの学校（小学校 2 校、中学校 1 校）がなくなることになるため、当初は地域の方の中には反対する人がいた。保護者の中

には大きな学校に通わせたいという方もいたが、声の大きい反対者の前では言えない人もいた。教育委員会が「子供たちのために」と説明して理解してもらえ反対の中心になっていた方が最終的には開校準備委員会に入って「いい学校をつくろう」となった。

開校準備委員会で関わってもらった地域の方には、コミュニティスクールの学校運営協議会に入ってもらい取組を進めている。

SOSEI 学として、学年ごとに地域からミッションをもらい地域に出向いて子供たちが自ら課題解決方法を探り学習している。今まで内海町に行くことは少なかったが、ふるさと学習として出向く機会が増えた。

制服や体操服については開校準備委員会で全て決めていった。後期課程（中学校）は高校入試の関係もあるので制服がいいだろうという話になった。

通学はスクールバスを出している。人数が少ないところはタクシーを利用する生徒もいる。通学の安心・安全には配慮している。国の基準では、小学校 4km・中学校 6 kmで補助が出るが、小学校は 2km の範囲まで基準を下げてスクールバスの対応をしている。

今年度に全ての校舎が完成する。2020 年度に設計を開始してから敷地の買収や校舎の改修、部室棟、体育館、テニスコートの設置など 7 年かかった。津波の浸水想定地域のため、校舎はかさ上げて建築した。

【メリット・デメリット】

義務教育学校のメリットとしては、9 年間を通した柔軟なカリキュラムを立てることができ、また学年の組み合わせもいろいろできる点である。さらに、先生の情報交換もしっかりできるため中 1 ギャップの解消につながる。

デメリットとしては、小さな規模の学校から来た子供の中には、なじめない子もいた点である。学校再編の際に、教員の配慮をして子供のフォローを行った。再編後 2 年間、アンケート調査をしているが 9 割以上の子供や保護者からは義務教育学校について肯定的な意見が寄せられおり、再編の心配ごとについては、徐々に改善していつている。

【課題】

9 学年過ごす環境を整えるため土地の買収、スクールバスの費用などのコスト面が上げられる。また、閉校後の施設は、民間提案制度を使って検討中であるが、耐震化がない建物は解体して更地を売却したり、公民館を移設、老人保健施設に売却をしたりした例もある。複式学級の解消は終わったが、全市的な学校の建物の老朽化が進んでいる。当初は 114 校あったのを 102 校まで再編したが、子供は徐々に減っていくので義務教育学校の整備を進めていく。

今年、小学校と交流館を一つの施設としてつくった。他の公共施設も老朽化しているので、複合施設をつくってコストを下げていくこともしている。



<会議室にて説明を受ける様子>

主な質問・
応答

問：学校再編に反対していた住民とのやり取りはどんなものだったか

答：小規模の学校から規模の大きな学校に移ることへの不安感が大きかった。納得していただけるまで議論した。

問：再編によって放課後児童クラブはどうなったか

答：放課後児童クラブは再編したところに集約した。福山市は学校施設の中で開設しているところがほとんどである。一時的に残ったところもあったが、最終的には学校が終わってすぐ行けるところに集約した。

問：反対派の中心的人が協力的になったきっかけは

答：再編が決まったからには、いい学校にしようと考えたからだと思う。また、地元の調整は議員なしでは、なしえなかった。

問：学校がなくなった地域のまちづくりは

答：まちづくりの担当課が入って地域と話している。跡地活用について民間提案制度を使って検討している。

問：教員の専門性はどうなっているか

	答：後期課程（中学校）の数学・体育・音楽の専門教師の視点から前期課程（小学校）を教えている。
その他（意見・感想）	今回、学校の様子 DVD を準備していただいた。その中で、想青学園には、建物の中心部に図書館やふれあいルームがあり、そこを取り囲むように扉のない教室が配置されていた。また、これまでの小学校は、教室の中にカバンを置くロッカーが設置されていたが、想青学園は、クラスブースという名前で別にロッカースペースをつくったとのことだった。 このように、教室を出るとすぐに図書など様々なものに触れることができるような配置になっており、さらに、クラスブースのようにできるだけ子供たちの居場所になるような空間がつけられ、学校のレイアウトも工夫されていた。 今回の視察を通じて具体的に義務教育学校についてイメージすることができた。また、義務教育学校のデメリットとして「小さな規模の学校から来た子供の中には、なじめない子もいた」ということだったが、義務教育学校か否かに関わらず学校再編に当たっては起こりうる課題であり、今回の視察では義務教育学校自体の問題点は子供にとっては少ないのではないかと、むしろメリットが大きいのではないかと感じた。 今後も、他の自治体の義務教育学校の状況や、小中一貫校の取組などについても研究していき久留米市の学校再編について検討していきたい。

視察報告書

委員会名	教育民生常任委員会
視察日時	令和 6 年 11 月 7 日（木） 午後 1 時 ～ 午後 2 時 30 分
視察先・概要	静岡県静岡市 人口：約 67 万 7 千人 面積：1,411.93 k m ² 特記事項：政令指定都市
視察内容	認知症施策について
選定理由	8 月に久留米市の認知症施策について所管事務調査を行った。その際に「認知症イベントや予防講座、認知症カフェなどの場への参加が一部の人にとどまっていること」が課題としてあげられた。また、久留米市の認知症高齢者は、国の推計に基づく 2025 年に約 16,000 人になり、その後も増えるとされている。そのような状況を鑑み、久留米市として認知症全般についてさらなる普及・啓発に取り組む必要性を感じたため。
調査概要	かけこまち七間町にて、保健福祉長寿局 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 認知症施策推進係 石川係長から、かけこまち七間町での取組や認知症施策全体について説明を聴取。「タブレットを使った脳の健康度チェック」「VR ゴーグルを使った認知症の人の見え方・感じ方の体験」を行い、質疑応答を行った。
調査内容	令和 2 年 10 月 31 日にオープンした施設。認知症について、困った人が立ち寄ることができるように、また、無関心層に広く情報を提供できるように中心市街地（商店街の一角）に整備。スタッフは市職員 1 名と介護福祉士や社会福祉士の資格を持つ相談業務委託相談員 2 名の合計 3 名。土日も開館。 コロナ禍もあり令和 2 年度の来場者は 586 名、相談件数は 91 件であったが令和 5 年度の来場者は 12,920 名、相談件数は 444 件と増えた。そこに至る取組として下記の事業を行った。 ・地域のキーパーソンの招待ツアー（静岡城の堀を舟で巡るツアーと組合せ） ・立地する商店街との連携（七夕、夏祭り、ハロウィン） ・月平均 15 回のイベントの開催（認知症を直接のテーマにしないものも） ・休憩スペースとして施設の開放（静岡市産のお茶も提供） 既存の認知症・高齢者の支援機関との違いが不明瞭だったため、令和 6 年に機能を整理し新コンセプトを設定。 ・予防に加え「早期発見」を推進（令和 5 年に認知症新薬が開発されたことに伴うもの）

- ・医療・介護サービス利用につながるまでの支援を行う案内役・総合世話係（地域包括支援センターとのすみ分け）
- ・全世代を対象とした普及啓発のプラットフォーム（認知症については、まずここを見るという独自の SNS の運用の開始）



<（左）説明を受ける様子、（右）VR ゴーグルにて体験の様子>

主な質問・
応答

問：相談件数が伸びているが包括支援センターにつなぐケースも多いのか

答：インターネットで「静岡市 認知症」で検索すると「かけこまち七間町」が出てくるため、インターネットを使える方や静岡市外に住む子供世代からのアドバイスで相談に来られる方が多い。すぐに包括支援センターにつなぐこともある。

問：運営はどのようになっているか

答：施設は市の管理で、相談業務を委託している。

問：学校との連携はしているか

答：認知症サポーター養成講座の受講依頼はしている。放課後デイサービスが夏休みのカリキュラムを探しているので、子供向けの講座を開いている。国の計画でも明記されているので、来年度はもっと取り組んでいきたい。

問：リピーターは多いか

答：多い。カルチャーセンターのような使い方をしていて、その方たちの認知症予防になるので悪いことではないが、広く無関心層に周知するという点とずれが生じている。イベントで無関心層にアプローチしていこうと考えている。

問：認知症カフェは

答：市内に 19 か所である。多いとは言えないが S（静岡）型デイサービスといって、地区社協（60 代・70 代のボランティアが 70 代・80 代の参加者と一緒に

	レクリエーションする）をお願いして市内 300 か所、2 週間に 1 回サロンを開いているので、そこまで認知症カフェが広がっていない。 問：費用は 答：立地が良かったため家賃が一番高い。VR の機器は 1 台 4 万円くらい。コンテンツ利用料として月 1 万円支払っている。タブレットのテストは 1 回 500 円である。 問：家で生活している認知症の方は来られているか 答：本人からの相談はめったにないため課題。本人交流会を今年からしているが集まりはよくない。
その他（意見・感想）	VR による認知症体験やタブレットを使った認知症テストは画期的で、しかも誰でも無料で利用できるため、「ちょっと行ってみよう。近くに来たから立ち寄ってみよう」という動機付けになっていると感じた。さらに、気軽に立ち寄ることができるよう静岡茶を出すなど工夫されていた。 久留米市でも認知症予防講座（令和 5 年度参加者 137 名）、ものわすれ予防検診（令和 5 年度参加者 72 名）、にこにこステップ運動&スロージョギング（令和 5 年度 教室型参加者 1,080 名、講師派遣型利用者 1,823 名）、認知症サポーター養成（令和 5 年度 1,744 名養成）など様々な施策を行っている。 しかし、前述したとおり久留米市の認知症高齢者は 2025 年に約 16,000 人となるため、もっと気軽に多くの方が認知症チェックを行える環境整備が必要だと感じた。また、認知症に関わる家族をはじめとした関係者も増えるため、無関心層へ認知症に対する知識を持ってもらうことが必要であると考えます。 「かけこまち七間町」のように、認知症について困りごとがある人もない人も、気軽に立ち寄れる場所の整備を行うことで、無関心層へのアプローチが進展するのではないかと考える。久留米市の認知症についての普及啓発に力を入れる施策を今後も検討していきたい。

視察報告書

委員会名	教育民生常任委員会
視察日時	令和 6 年 11 月 8 日（金） 午前 10 時 ～午前 12 時
視察先・概要	兵庫県明石市 人口：約 30 万 6 千人 面積：49.41 k m ² 特記事項：中核市
視察内容	明石独自の 5 つの無料化について
選定理由	子供に特化した施策を進めることで子育て世代が多く転入しており 12 年連続で人口増となっている。子育てしやすいまちづくりに必要な施策を検討するため。
調査概要	パピオスあかしにて、こども局子育て支援室 勝見室長から明石独自の 5 つの無料化について説明を聴取し、質疑応答を行った。その後、パピオスあかしの視察を行った。
調査内容	0～14 歳、25～44 歳の転入により人口が増え、市民税収入が 2010 年決算で 391 億円だったのが 2022 年決算で 447 億円と 56 億円増えた。 市民から預かった税金を付加価値をつけて返す取組をしている。所得制限は行っていない。 【明石独自の 5 つの無料化】 （１）医療費：経済的な理由で病院へ行くことをためらうことがないよう医療費を無償化。18 歳以下の子供全員が対象。薬代や市外の病院も対象。事業費約 22 億円。 （２）保育料：子育て世帯の経済的負担を軽減し 2 人目を出産する後押しとなるよう第 2 子以降は完全無料。副食費も無料。幼稚園給食の実施。事業費約 6.4 億円。 （３）おむつ：満 1 歳までの全員に毎月宅配。育児に関する不安や悩みなどの育児相談を行い、支援の必要な世帯の早期発見、早期支援につなげている。コープこうべへ委託。事業費約 1.1 億円。 （４）給食費：市立中学校及び市立養護学校の給食の無償化。事業費約 3.3 億円。 （５）公共施設の入場料無償化：天文科学館（高校生以下無料）、文化博物館（中学生以下無料）、明石海浜プール（小学生以下無料）、あかしこども広場（小学生以下の児童とその保護者）の入場料無料

【パピオスあかし】

2階：誰でも使える屋内スペースである「あかし市民広場」

4階：あかし市民図書館

5階：一時保育ルーム、音楽スタジオ、ダンススタジオ、親子交流スペースハレハレ、キッチンルーム、中高生世代交流スペース、子育て支援センター

6階：こども健康センター、あかし総合窓口



< (左) 説明を受ける様子、(右) ハレハレ前での集合写真 >

主な質問・
応答

問：P18「保健師などがすべての家庭に訪問」とあるが、頻度はどうなっているか

答：全員に1回であるが、気になるところは数回訪問している

問：P25 のこども会議はどこがしているか

答：政策局市民とつながる課でしている

問：こども広場の利用者は

答：天気が悪いと利用が増える。またボーナス前など家庭のお金が厳しい時期も利用が増える

問：施設の課題は

答：空調の稼働率が高いので設備が悪くなっている点

問：こども食堂が全28校区56か所とあるが地域との関わりはどのようになっているか。

答：こども財団にお金を出して、こども財団がこども食堂に助成金を出して地域で運営をしている。市が直接するより柔軟に運営できる。

問：様々な子供に対する施策があるが、かじ取りはどこがしているか

	答：政策局が各部局からの施策をヒアリングして政策局と財務と市長が話して優先順位をつけている。
その他（意見・感想）	明石駅のロータリーの一角にパピオスあかしは建っており、その6階建ての建物のうち2, 4, 5, 6階は市の子育て施設として利用されている。明石市は「こどもを核としたまちづくり」をしているが、今回説明を受けた無料化の施策だけではなく、「明石駅のロータリーの一角」という建物の立地からも「こどもを核としたまちづくり」の意欲が伝わってきた。また、男性・女性トイレには、子供用の便器が設置されており、全ての個室にベビーチェアが設置されているなど、細かな配慮が感じられた。 パピオスあかしの中で特ににぎわっているのが、親子交流スペースハレハレで、ボネルンドの遊具が設置されている。対象は小学生以下の子供とその保護者。1回70分の利用で、1日5回の総入替制とのことだが、長期休みにはフル稼働とのことだった。同規模の施設を利用しようとするれば、数千円かかるところを明石市民は無料で利用でき、子育て世代には非常に魅力的な施設だと感じた。 また、中高生を対象としたユーススペースもある。そこでは、サークル活動や自習ができ、中高生は無料で使えるダンススタジオや音楽スタジオも併設しており、中高生世代の居場所となっている。 施設の再整備や5つの無料化をはじめとした様々な子供施策により子育て世帯の転入を促し、街に活気があふれていた。一方で、クリーンセンターなどの施設整備に対し今後、数百億の規模で投資が行われるということだった。 久留米市では水害対策が進みつつある。今後は「子育てをするなら久留米」と選ばれるような施策についてさらに検討をしていきたい。